



未来ファンド おうみ

おたがいさまがつながる社会をめざす
にゅーす

News



Mirai Fund Ohmi News Letter Vol.4

2012.9 秋号



やぶにうもれる「やまおやし」

つながる活動

Photo



マキノまちづくり
ネットワーク
センター

高島市マキノ町では、人と里山の歴史を語る「やまおやし」があり、春を告げる妖精「かたくり」の花が咲く豊かな里山が地域住民の誇りです。マキノまちづくりネットワークセンターでは、未来ファンドおうみ「おうみNPO活動基金」の助成を受け、整備の手が薄くなり、地域の貴重な資源が埋もれている里山の整備を始めました。健全な里山の姿を取り戻し、人々と里山のきずなの復活や地域の人々の交流を目的に行われます。子どもから高齢者まで多くの人が関わる活動が継続的に行われる仕組みを作っていきます。

※「やまおやし」とは、長年炭や薪にするために人が枝を切り、萌芽更新が繰り返されたクヌギなどの幹が太くなり、こぶや空洞になった姿を写真家今森光彦さんが名づけました。

Data

- 団体名：マキノまちづくりネットワークセンター
 - 連絡先：〒520-1813 高島市マキノ町高木浜1-14-2
マキノ自然休養村管理センター内
- TEL：0740-28-8002 FAX：0740-20-1024
E-mail：machinet@ex.bw.dream.jp
URL：http://www.ex.biwa.ne.jp/machinet/

話題

「寄付がつなく社会の絆」

つながる社会

Tsunagaru Syakai

「アフリカに井戸を作るための募金をお願いします!」。東京都杉並区立和泉中学校の3年生が、二人一組で近くの商店街にある蕎麦屋に入っの第一声。戸惑った店の人に



▲募金活動で商店街を訪問する子どもたち。

丁寧に説明して、「ありがとうございました!」と言って店を出た。この日は、翌週に実施する募金活動への依頼文を持参しての訪問だった。店を出てくるなり、男子生徒が「店のおぼさん、迷惑そうだった。ああ、嫌だなー」。「でも、大きな声で『ありがとう』と言ったら、にこっと笑ってくれたじゃない」と言っても、暗い顔。背中を押して次の左官屋さんへ。出てきて、「やさしかった」とほっとした顔。次の美容院から出てきて、「よく話を聞いてくれた、もう大丈夫だな」と自慢顔。ほんの短い間に、子どもはこんなに学習するん

だ、とびっくりしながらもほっと一息ついた。これは、当協会が進めている、募金をし、寄付先も自分たちで考える過程を通しての学習プログラムの一幕。昨年この活動をきっかけに、商店街と学校との交流が深まった。商店街の方も、「子どもたちがこういう活動をしてくれてうれしいですね」と協力的だ。子どもたちも、大人に向かって一生懸命に趣旨を説明して、それに応えて寄付をしてもらう体験は、駅頭募金とは違う醍醐味があるようだ。寄付は、お金に信頼を乗せて循環させるものだとつくづく実感。学校への導入は



ファンドレイジングの小箱

A Small Box of FUNDRAISING

寄付を集めるためのひと工夫、寄付者の共感を呼ぶ事業、想いをつなぐ取り組みをご紹介します。

上丹生プロジェクトK

炭焼きから始まった村おこし 村の伝統を子どもたちにつなぐ

約140世帯、高齢化率32%の「木彫の里」米原市上丹生地区では、平成13年、ふるさと創生資金による旧米原町の助成を受け、豊かな自然環境を生かした元気なまちづくりを目指して「プロジェクトK」が設立されました。

老若男女幅広い層からメンバーを募り、最初に取り組んだのはかつての生業だった「炭焼き」。80代の経験者を師匠に、窯作りから始め、材料の木材を山から切り出し、初めて350キロの炭が焼きあがった時は感動でした。窯に火を入れてから2週間、昼夜の番もありますが、楽しく交流しながら作業しています。年間6回の炭焼きで、燃料用以外に飾り炭や炭盆栽も制作し、大事な収入源となっています。杉や檜の間伐

材を利用し、山の保全にも役立っています。9年前、「花いっぱいプロジェクト」として「コーヒー一杯分(500円)で花を咲かせましょう」を合言葉に寄付を集め、休耕田を広大なチューリップ畑にしました。今では、地域の外から球根オーナーも広く募集し、球根植えや球根起こしへの参加も呼びかけ、地域と応援者が一緒に支えています。「上丹生チューリップ祭り」では、約2万本のチューリップが咲くなか、手作りの草餅や地元山菜の天ぷらなどの販売もあり、地域内外から1,000人以上が春の1日を楽しまます。

杉木立に高さ6mの「ツリーハウス」を子どもも大人も一緒に作ったり、お年寄りから聞き集めた昔話や生活の知恵などを「上



▲色とりどりのチューリップが咲きそろう、地域に春を呼び込みます。

丹生懐かしのふるさと絵屏風」に描き、子どもたちに語り伝えたりと世代間の交流にも力を入れています。

活動は地域の人々とともに、地域の外の風も巻き込んで、活気あるまちづくりを続けています。

上丹生プロジェクトK

〒520-0033

滋賀県米原市上丹生1348

TEL: 0749-54-1928 (吉田)

E-mail: hide1928@alpha.ocn.ne.jp

URL: <http://www.zb.ztv.ne.jp/image/top.html>

高橋陽子さん

公益社団法人 日本フィランソロピー協会 理事長

ハードルが高いが、子どもたちの声を積み上げ、地域への愛情や信頼の輪を広げていきたいと思っている。当協会は、フィランソロピーバンクと言う寄付コーディネート仕組みを持っているが、先日、個人会員から東日本大震災被災地に寄付したい、という申し出があった。岩手県田野畑村の、障害児の学童保育事業を行っているNPOを紹介した。震災後、施設の一部を改装して一般児童預かりの事業を開始していた。寄付金はそのエアコン購入資金に充当された。子どもたちからお礼の手紙と絵が送られてきた。この方は、

投資顧問会社の経営者だが、「寄付も投資なんだ、とつくづく思いました」と喜びの声を寄せてくれた。「投資収益はおカネで受け取るのが普通ですが、そのおカネは幸福感に変換してこそ意味があるのです。それなら、最初からおカネを通さずに直接、幸福感をリターンとして受け取っても良いはず。私はそれを「超マネー投資」と呼んでいます。しかも、その幸福感はずっと心に残ります」。大きな団体では、寄付先がよくわからない、でも、こうした直接につながる寄付は、相手の顔が見え、喜びも伝わり、想像を超えた幸せをも

高橋陽子さん

1991年、社団法人日本フィランソロピー協会に入職。事務局長・常務理事を経て2001年6月より理事長。主に、企業の社会貢献を中心としたCSRの推進に従事。NPOや行政との協働事業の提案や、各セクター間の橋渡しをし、「民間の果たす公益」の促進に寄与することをめざしている。主な編・著書『フィランソロピー入門』(海南書房)(1997年)『60歳からのいきいきボランティア入門』(日本加除出版)(1999年)『社会貢献へようこそ』(求龍堂)(2005年)



らえた、と感謝された。寄付にはリターンがある、と改めて実感した梅雨の晴れ間のようなすがすがしい2つの出来事だった。



未来ファンドおうみ応援団

Cheer Group of MIRAI FUND

未来ファンドおうみへご寄付いただいた企業、個人の方々の想いをご紹介します。

エールコーポレーション株式会社

環境を守ることは大切な「命」を守ること

昨年11月6日、24年ぶりに開催された「抱きしめてBIWAKO」の実行委員長でもあり、「びわ湖の日基金」にご寄付いただいた、エールコーポレーション代表取締役の白井幸則さんに、お話をお聞きしました。

始まりは、地域を活性化したいという願いからでした。「自分には関係ない」「自分には出来ない」と思っている人に、みんなで手を繋ぎ「みんな助け合って生きているんだ」ということを体感して欲しかったのです。

また、びわ湖の環境を守ることは、びわ湖で生きる小さな命を守ることであり、その周りの少し強い命も守られ、ひいては人間が安心して暮らせる社会へとつながりま

す。「抱きしめてBIWAKO」は「命」の大切さを感じる場でもあるのです。そして、参加費は誰かのために役立てたいという善意の表れであり「愛の実力を磨く」機会でもありました。

当日は16万人の参加があり、お褒めのメッセージも頂き、一生懸命に頑張れば共感して多くの人が集まってくれることを実感しました。

「びわ湖の日基金」への寄付はNPOへの大きな期待です。NPOは私たちができない部分をカバーする大きな役割を持ち、一生懸命に活動していますが、資金が少なく困っている団体が多いです。その活動を理解しみんなが応援することは大切なことであり、NPO自身も寄付をもらうことに罪



▲琵琶湖岸だけでなく、グラウンドで人文字を作って、つながりを感じました。

悪感を持たずに活動に自信を持ち、広く支援を呼びかけていけばいいと思います。

命や愛、人権が尊重されるより良い社会づくりのために、自分が社会から受けた恩恵を返す活動をこれからも続けていきたいと思っています。

エールコーポレーション株式会社

〒525-0016
滋賀県草津市北大萱町556-2
TEL : 077-568-3190
FAX : 077-568-3773
E-mail : info@utopia-town.com
URL : http://dakibiwa.com/

楽しみながら里山を暮らしに活かし森を再生

未来ファンドおうみ
「淡海のつなぐ、ひらく、みらい賞」
受賞

NPO 法人やまんばの会

一日中ハンモックで寝ていたいなら自分で草刈りしてハンモックを吊す。そうすれば森の中に風が通ります。カブトムシを育てたいなら、落ち葉や枯れ木を集め卵を産み付ける場所をつくります。「落ち葉掻き」「不要木の整理」が少しできます。ストーブの薪やシイタケ原木がほしい人は、必要なだけ伐ってください。日の射し込むところにいろいろな種が芽吹きます。やまんばの会は、米原市日光寺に拠点をおき、里山を保全しながら環境学習をサポートし、次の世代に伝えていきます。私たちは昔のような生活に戻ることにはできませんが、楽しみながら里山を暮らしに活かすことが、放置された森を蘇らせ、様々な生き物がすみ続ける環境をすることにできると考えているのです。ぜひ一緒に森に入りませんか。



- ◆NPO 法人やまんばの会
- ◆連絡先(事務局)：〒521-0074 米原市高溝229-21
TEL：090-9629-5548(担当 廣瀬) E-mail：yamanbanokai@hotmail.com
活動拠点/米原市日光寺 東溜自然公園の奥「やまんばの森」
活動日時/毎月第1および第3土曜日、第4日曜日 9:00～15:00
URL：http://yamanbanokai.p1.bindsite.jp/

エンジョイ・レッスンでリフレッシュ子育て中の親支援！

NPO 法人マザー・サブリ

マザー・サブリは、保育士、幼稚園教諭の有資格者が中心となって立ち上げた団体です。子育て中の親支援を行うことによって、親子の関わりを円滑にし、安定した親子関係を築けるように支援しています。未来ファンドおうみ「びわこ市民活動応援基金」の助成を受け、滋賀県立スポーツ会館で月1回、エンジョイ・レッスンを行っています。エンジョイ・レッスンは、就園前のお子さんと親が参加し、親は子育てで疲れた体の機能改善を行い、子どもたちは保育士の絵本読み聞かせや紙芝居を見て過ごします。親と子が別々に過ごすことで、お互いにリフレッシュすることを目的としています。11月からは、参加者の祖父母、地域の中高齢者へも呼びかけ、機能改善運動を体験したり、子どもたちと一緒に遊ぶことで世代間交流を楽しんでもらいたいと思っています。



今後の開催は、9月14日、10月12日、11月9日、12月21日、1月11日、2月1日、3月8日に実施予定です。参加希望の方はお問い合わせください。

- ◆NPO 法人マザー・サブリ
- ◆連絡先：大津市真野一丁目4-18
TEL：080-4643-4816(山口) E-mail：mazasap@gmail.com
URL：http://www.eonet.ne.jp/mazasap/

Information

インフォメーション

未来ファンドおうみ「積水化成品基金」開設しました！

「未来ファンドおうみ」に新しい基金が開設されました。積水化成品工業株式会社では、「人と環境を大切に 夢をふくらませる積水化成品グループ」というCSR宣言を掲げ、社会の持続的発展に貢献すべく活動されています。

今回、市民による継続的な環境保全活動を応援し、また社員もボランティア活動として参加し、活動を支えることを目的に助成



をおこなう「積水化成品基金」を開設するようになりました。

2012年7月11日、淡海ネットワークセンターにて寄付金受領と感謝状の贈呈式を行いました。

共感とともに夢と想いを實現する ファンドレイジングセミナー 参加者募集

地元の里山の環境整備をして、子どもたちに解放したい。地域に障がい児童も遊べるおもちゃ図書館をつくりたい。誰もが気軽に交流できる地域のカフェをつくりたい。

実現したい夢を多くの人の共感とともにカタチにするためのファンドレイジング(資金集め)について学びます。ファンドレイジングの全国のさまざまな工夫や知恵を知り、自分たちはどんなファンドレイジングができるのか、一緒に考えましょう。

- ◇日時：11月11日(日) 13:30～16:30
- ◇会場：滋賀県立男女共同参画センター G-net
- ◇参加費：500円(資料代)
- ◇講師：鈴木 歩さん(シーズ・市民活動を支える制度をつくる会)
- ※詳細はホームページをご覧ください。

未来ファンドおうみへの寄付・助成事業についてのご相談は淡海ネットワークセンターへ



Ohmi Network Center

淡海ネットワークセンター

公益財団法人 淡海文化振興財団

公益財団法人 淡海文化振興財団

淡海ネットワークセンターは、県内の市民活動、NPO をサポート・ネットワークしています。

■〒520-0801 大津市におの浜 1-1-20 ピアザ淡海 2 階 ■TEL 077-524-8440 ■FAX 077-524-8442

■http://www.ohmi-net.com ■E-mail:office@ohmi-net.com ■開館時間/9:00～17:00 ■休館日/月曜日・祝日